

見つけて！農産物の環境負荷低減の「見える化」
～温室効果ガス削減への貢献と生物多様性保全への配慮～

● 環境負荷低減の「見える化」とは

農林水産省では「みどりの食料システム戦略」に基づき、持続可能な食料システムを構築するため、食料システム全体での環境負荷低減の取組や国民理解の醸成に向けて、環境負荷低減の取組の「見える化」を推進しています。ガイドラインに基づき、「温室効果ガス削減への貢献」や「生物多様性の保全」の取組を分かりやすく等級ラベルで表示することで、生産者の環境負荷低減の努力が消費者に伝わり、農産物を選択できる環境を整えていきます。（詳しくは下記アドレスの農林水産省 HP をご覧ください。）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html#mieruka_gaiyou

農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」

- みどりの食料システム戦略に基づき、消費者の選択に資する環境負荷低減の取組の「見える化」を進めます。
- 化学肥料・化学農薬や化石燃料の使用低減、バイオ炭の施用、水田の水管理などの栽培情報を用い、定量的に温室効果ガスの排出と吸収を算定し、削減への貢献の度合いに応じ星の数で分かりやすく表示します。
- 米については、生物多様性保全の取組の得点に応じて評価し、温室効果ガスの削減貢献と合わせて等級表示できます。
- 農産物等にラベル表示するための基本的な考え方と、算定・表示の手順を整理したガイドラインを策定し、「見える化」の本格運用を開始しました（登録118件 令和6年5月14日時点）。
- 生産者・事業者に対する算定支援や販売資材の提供を引き続き実施します。



温室効果ガス削減への貢献

栽培情報を用い、生産時の温室効果ガス排出量を試算し、地域の慣行栽培と比較した削減貢献率を算定。

$$100\% - \frac{\text{対象生産者の栽培方法での排出量(品目別)}}{\text{地域の標準的栽培方法での排出量(品目別)}} = \text{削減貢献率(\%)}$$

排出(農薬、肥料、燃料等)
- 吸収(バイオ炭等)

★ : 削減貢献率5%以上
★★ : 削減貢献率10%以上
★★★ : 削減貢献率20%以上



※上記の商標は商標出願中です

対象品目：23品目

米、トマト(露地・施設)、キュウリ(露地・施設)、ミニトマト(施設)、なす(露地・施設)、ほうれん草、白ねぎ、玉ねぎ、白菜、ばれいしょ、かんしょ、キャベツ、レタス、大根、にんじん、アスパラガス、リンゴ、みかん(露地・施設)、ぶどう(露地・施設)、日本なし、もも、いちご(施設)、茶 ※括弧書きがないものは全て露地のみ

生物多様性保全への配慮

※米に限る

<取組一覧>

化学農薬・化学肥料の不使用	2点
化学農薬・化学肥料の低減(5割以上10割未満)	1点
冬期湛水	1点
中干し延期または中止	1点
江の設置等	1点
魚類の保護	1点
畦畔管理	1点

★ : 取組の得点1点
★★ : 取組の得点2点
★★★ : 取組の得点3点以上

消費者へのわかりやすい表示

(令和4年度・令和5年度 実証より)

店舗への印象



令和4年度・令和5年度実証において
全国のべ789か所で販売
(令和6年3月末時点)

- 「農産物の環境負荷低減に関する評価・表示ガイドライン」は以下のアドレスをご覧ください。



https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/guideline_all.pdf

- 環境負荷低減の「見える化」に取り組んでいる農業者/団体は、下記アドレスの農林水産省 HP でご確認ください。（農業者/団体の名称及び生産地は希望した場合のみ公表）



https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/number.html

彩の国 農業人

～子育ても野菜作りも一所懸命～
多品目の野菜を育てています

うえで だいき
植出 大輝さん

鴻巣市の「鴻巣有機農業生産グループ」に所属し、年間を通して多品目の有機野菜を生産する「うえでい農園」植出大輝さんをご紹介します。

鴻巣市の「うえでい農園」の植出大輝さんは、大学卒業後、一旦就職しましたが、家族との触れ合いの時間をもっと大切にしたいとの思いから農業をする決意を固め、31歳の時に退職し、埼玉県農業大学校で1年間有機農業を学んだ後、現在、埼玉県の「北足立北部明日の農業担い手育成塾」で研修を受けながら、年間を通じて多品目の有機野菜の生産に取り組んでいます。

大阪府出身の植出さんは、父親の転勤を機に小学5年生から東京都で暮らし、都内の大学に進学しました。大学では、農学部で林業を専攻して森林の生態系について学び、土木職の公務員として自然環境に関わる仕事に携わってきました。その後、結婚を機に鴻巣市に転居しました。

子どもが生まれ、育児休業を1年間取得し職場に復帰した時、鴻巣市から職場への通勤時間が子どもと接する時間を減らしていることや、子育てを妻に頼り過ぎていないかなどを感じ、家族との時間をもっと大切にしたいとの思いが強くなり、また、住まい近くの「農業の魅力や可能性」に惹かれ、就農することを決意しました。



植出 大輝さん

令和5年に、鴻巣市内の有機栽培農家6戸で立ち上げた「鴻巣有機農業生産グループ」の一員となり、借地畑47aで「このす野菜 ORGANIC」とネーミングした有機JASに準じて育てた野菜を「このす野菜 栽培期間中 農薬・化学肥料不使用」として販売を始めました。

栽培する野菜は、かぼちゃ、スイスチャード、スナップエンドウ、ブロッコリー、ズッキーニ、きゅうり、じゃがいも等40品目以上に及び、直売所での販売や通信販売の他、各種イベント（マルシェ）へ出品しています。今後は、かぼちゃを使用した「かぼちゃバター」や「かぼちゃチーズブレッド」等を委託加工して販売する予定です。

SDGsや環境負荷の少ない農業が推進されている中、「人々が農薬の心配などを気にせず、気持ち良く食べられる野菜を作りたい。」、更に子どもが生まれたことで、「小さい子どもや健康を気にする方にも気持ち良く食べてもらえる野菜を作りたい。」とのこと。また、「有機野菜を求めている方がいる場所（マルシェ等）を探しながら販路を拡大するとともに、規模拡大を目指していきたい。」、その上で、「有機JAS認証を取得し経営を安定させていきたい。」と想いを語られました。



スイスチャード

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1

さいたま新都心合同庁舎2号館

TEL 048-740-5835

<関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>